

# 活動報告

## 〈活動報告〉

### カザフスタン国立大学及び国立教育大学等との研究交流

本プロジェクトは、筑波大学の2018年度「教育戦略推進プロジェクト支援事業」に採択された「グローバルな視野をもち世界的に活躍できる教育研究者養成のための授業の構築」の一環として実施されたものである。本プロジェクトは、前期課程の教育学専攻、後期課程の教育基礎学専攻、学校教育学専攻、および3年制博士課程ヒューマンケア科学専攻共生教育学分野の3専攻1分野が申請組織となっており、昨年度のウズベキスタンへの派遣に続くものである。

本プロジェクトは、2019年3月15日から20日の日程で実施した。参加者は教員3名（タスタンベコワ・クアニシ、遠藤優介と藤井）と大学院生6名（江幡千佳、高野雅暉、田中怜、平岡秀美、ヤン・ジャヨン、ユン・リンダ、）である。主な活動内容は次の通りである。

16日(土) 農村部の初等中等学校での授業参観、教職員との交流。

17日(日) 文化プログラム

18日(月) カザフ国立教育大学においてラウンドテーブル「日本及びカザフスタンの大学における心理学者及び教育学者養成のための革新的アプローチ」。大学院生の研究発表、研究交流、アマルティ市内の第27幼稚園見学、教員との意見交換。

19日(火) カザフ国立大学においてラウンドテーブル「高等教育開発の現代的動向：課題と展望」を開催し、大学院生が研究発表、カザフ国立芸術アカデミー訪問。

このうち、特にカザフ国立大学とカザフ国立教育大学において、それぞれラウンドテーブルを開催し、両国の教育課題について協議できたことは大きな成果であった。また、院生の英語による発表も高く評価された。なお、本派遣プログラムについては、「2018年度海外研究交流派遣プログラム（カザフスタン）報告書」（全87頁）を作成している。併せて実施したロシ

アへの派遣プログラムは「ロシア連邦・モスクワ市への研究交流派遣プログラム（2018年度）報告書」（全77頁）とともに参照願いたい。

（文責：藤井穂高）



## 〈活動報告〉

### カザフスタンの大学教員の研修

教育学域では筑波大学グローバル教師力開発推進室が教育学専攻の教員らの協力を得て、カザフスタンの大学教員を対象とした研修を受け入れて今年度で4年目になる。研修参加者は、カザフスタン教育科学省の「優秀な大学教員」賞を受賞し、日本の高等教育制度・政策に高い関心を持っている大学の管理職と教職員である。以下、今年度の研修内容について報告する。

2019年5月11日～17日の間にカザフスタンから14名の大学教員を受け入れて「グローバル化時代における日本教育制度の革新的発展の経験と課題」というテーマで研修を行った。研修参加者は、カザフ国立大学、カザフ国立教育大学、カザフ国立建築アカデミー、ユーラシア国立大学、カザフ国立芸術アカデミー、カザフ国際関係外国語大学、カザフ農業技術大学など、トップ大学から集まった。

研修の初日である5月12日（日）には文化プログラムがあり、筑波神社、牛久大仏の見学を通して、日本社会における神道と仏教の調和を知ることができた。研修二日目、5月13日（月）は講義日であり、本学人間学群教育学類長の藤田晃之教授による日本の生涯学習制度、人間総合科学研究科教育学・教育基礎学専攻長の藤井穂高教授による高等教育制度・政策に関する講義を聴講し、日本の教育政策・制度に関する知識を深めた。研修三日目の5月14日には、教育研究科スクールリーダーシップ開発専攻長の樋口直宏教授の引率によりつくば市秀峰筑波義務教育学校を訪問・見学し、学校教育の実践に触れた。

さらに、翌日5月15日には、藤田晃之教授の引率により文部科学省高等教育局高等教育室を訪問し、石橋昌室長から高等教育政策の課題と政策方針について講演を受けた。研修の最終日の5月16日には研修参加者の研究分野に近い筑波大学の他研究科の研究室を見学し、交流を

行った。

カザフスタン側が筑波大学の教育学研究・実践を高く評価し、このような研修の受け入れが今後とも続くことに期待を示した。

（文責：タスタンベコワ・クアニシ）



カザフスタンの大学教員らと  
グローバル教師力開発室・吉田武男室長



カザフスタンの大学教員らと教育研究科スクール  
リーダーシップ開発専攻・樋口直宏専攻長とつくば市  
秀峰筑波義務教育学校の教職員

〈活動報告〉

## 中国の華東師範大学との研究交流活動報告

大学院人間総合科学研究科の教育学関連専攻・分野では、ここ数年間、中国の華東師範大学との間で教員と大学院生が研究交流する機会を毎年設けてきた。2018年度は研究科の戦略プロジェクトに採択され、教員と院生を派遣した。派遣された教員は、浜田博文教授、唐木清志教授、上田孝典准教授の3名で、院生は、小牧叡司、宮本慧、木下豪、高心羽、毛月の5名である。前年度まで心理学、障害科学と合同で実施してきた大学院進学説明会も、今回はこの派遣日程に合わせて教育学独自で開催することができた。加えて、上海市教育科学研究院のサポートを受けて上海市内の公立学校2校を視察し、校長・教員と懇談する機会をもつことができた。なお、比樂中学校の訪問にあたっては、人間学群が海外の高校生を対象にして企画したアンケート調査への協力を得るという目的のもと、人間学群から派遣された前人間学群長の吉田武男教授と指導院生の宋一萱が同行した。

具体的な日程は下記の通りであった。

- 3月11日 上海到着。華東師範大学内のホテルにチェックイン。
- 3月12日 上海市内公立学校2校を視察して校長・教員等と懇談。
- 3月13日 日中教育学研究交流セミナーで互いの院生が英語で研究発表。その後、教育学部において大学院進学説明会を開催。
- 3月14日 外国語学部の日本語学院において大学院進学説明会を開催
- 3月15日 帰国。

華東師範大学の博士課程院生と本学院生が互いに自分の研究について発表し合うセミナーでは、発表と質疑応答が英語で行われた。華東師範大学の教員からも研究内容に対する質問が出され、発表者にとってはとても充実した討議の機会となった。また、大学院進学説明会では参

加者からの質問に院生が答えたり、大学院生活に関する具体的な情報提供を行ったりする場面もあり、実り多い会となった。

教師教育学院の周院長からは、前年度に引き続き、本学との研究交流を是非今後も続けていきたいとの言葉をいただいた。

(浜田博文)



華東師範大学教育学部



華東師範大学日本語学院

〈活動報告〉

## ロシア連邦・モスクワ市への研究交流派遣プログラム活動報告

本プログラムは、平成30年度「教育戦略プロジェクト支援事業」の経費支援を受けて実施されたものである。本プログラムは2019年2月15日(金)～21日(木)にかけて実施された。派遣された教員は、吉田武男教授、タスタンベコワ・クアニシ助教、平井悠介助教、宮澤優弥特任助教。院生は、王巖崧、宋一萱、高野貴大、川上若奈、木村百合子、菊田尚人、細矢智寛であった。派遣日程は次の通りであった。

2月15日(金)

成田空港発、ドモジエドヴォ空港着

2月16日(土)

モスクワ市立教育大学訪問

院生研究発表、Ge-NIS 学生ラウンドテーブル、クアニシ先生講演、昼食交流会、日本語と英語の授業見学

2月17日(日)

モスクワ市内見学

2月18日(月)

モスクワ市立教育大学附属教育カレッジ・イズマイロヴォ校訪問、モスクワ国立大学哲学部訪問

2月19日(火)

モスクワ市第518番初等中等普通教育学校訪問・見学、創造センター「Na Vadkovskom」(補充教育施設)訪問、ボリシヨイ劇場「ロミオとジュリエット」鑑賞

2月20日(水)

モスクワ市立教育大学 I.B. シヤン副学部長との面談(教員)、モスクワ市立教育大学学生の家内でバザール散策(院生)、ドモジエドヴォ空港発

2月21日(木)

成田空港着

以下、主な活動を記載する。

16日の院生研究発表では院生は英語で発表を行った。また、昼食時には交流会を主に日本語で行い、日本とロシアの文化交流を行うことができた。この日、クアニシ先生の講演があった。

18日のモスクワ国立大学哲学部訪問は吉田先生とモスクワ大学のプリズガリナ先生が国際学会で親交を深めたことがきっかけとなり実現されたものである。この会では、哲学部の紹介、クアニシ先生の筑波大学の紹介、平井先生の日本における教育哲学の紹介が行われ、その後モスクワ国立大学の先生や院生から質問があった。

19日はモスクワ大学システム・プロジェクト・インスティテュートに教員が訪れ、交流を行った。

全体を通して、モスクワ市立大学や附属教育カレッジ、初等中等普通教育学校、補充教育施設などを見学し、ロシアの教育に関して知見を深めた。また、市内見学やロメジュリの鑑賞など、ロシアの文化にふれることもできた。

それぞれの教育機関で、筑波大学との前向きで友好的な関係が示された。来年度以降も積極的な交流を行う計画がある。(文責：宮澤優弥)



モスクワ国立大学にて、右からミロノフ学部長、吉田先生、平井先生



モスクワ市立大学交流会にて